

今年夏に東京でオリンピック・パラリンピックが開かれますネ。そこでどうやって干支が順番が決まったのか動物たちの大レースの物語です。

あかしあかし天上の玉皇大帝という人が、12種類の動物を利用して年を表わそうと考えた。どうしようか... さいそれならいっせ競技で決めちまえ!! というわけで動物たちに競技によって年を決めろというお融れが出された。

牛は、**おいらは遅いもんぞ、早く出かける** まだ暗いのに出た。牛小屋の天井で見ていたネズミは、**ちとあなたの背中に乗せてもらえませんか** ところが、牛の背中に乗ったネズミはゴール **あ、はいです** 前で牛の背中から降り、ちよちよと走って、ズル賢いネズミが1番。人のいいうしは2番ってことになっちゃったんだって。

次に現れたリュウとトラは、これは予想以上のデットヒート! 抜きつ抜かれつ両者はまったく譲らない。お!とどうした。いきなりウサギが競争に乱入して来たぞ! これはたいへんだ。今ウサギがリュウの進路を妨害した模様。おーと、そうこうしている間にトラがゴール。続いて、なんとウサギは意外にもウサギがゴール。それで、トラが3番。ウサギが4番と決まっちゃった!

焦ったリュウが、何がなんでも5番にならなくてはと急いでいるとそこへ、ハビがやって来た。でもリュウはハビゴときに5番を明け渡すことはできないというもの。
ちとお前さ、おれに似ているなんて思ってるんじゃないだろうね。お前なんて、角も無いし、よくそんな姿で平気でいられるね。おれだったら恥ずかしくて、人前には出られないヤビな!

威厳ある姿のリュウにこう言われた日に、ハビとしては立っ頼がない。仕方ないからハビは頭を隠すようにリュウの後ろについて。これでリュウが5番、ハビが6番

少し遅れてウマがやって来たので7番。続いてサルとヒツジがほぼ同時に到着。これは審査員の判定によって、ヒツジが8番、サルが9番に決定。その後、ちょっとした問題が起きた。トリとイヌが同時に到着してしまったわけ。審査員たちが考えているとトリが大声で直訴を始めた。

審査員の皆様! どうかお聞きください。私は毎日朝早くからそれも休むことなく大声で、町の人々を起こすという務めをしております。のどが乾くことがあっても、一日たりとも欠かしたことはございません。でもこのイヌはどうでしょう。主人のいない家を守っているだけではありませんか。どうして私がイヌより先になれないということがありましょか!!

言われてみればもっともな話だ! ということでトリが10番、イヌが11番ということになった。最後に到着したイノシシが12番目となった。これが中国に伝わる12支のお話です。

ところで、12支にはどうしてネコがいないのでしょうか? 日ごろいじめられていたネズミがネコにウリの日程を教えたため、ネコは競争に参加することができなかったというわけ。翌日門内に入ったが、天帝から「昨日終った顔を洗って出直してこい!」と言われ、ネコは騙したネズミを恨み、以後捕まえるようになったという。また、ネコが手で顔を洗うような仕草をする習性も、天帝にこの日より命じられたためであるそう。